

わたくしからみた税金

作文

長門税務署長賞

税金について思う

向津具中学校 三年

白石 恭子

小学校の頃から、あまり好きではなかった社会科。中学三年になって、新しく「公民」という分野に入り、憲法について学習した。

その憲法の三大義務の中の一つに「税金を納める義務」というのがある。だが残念なことに、この義務を守らない人もいろいろいる。どうしてもちゃんと税金を納めないのだから。税金を納めることは、私たちの義務であるばかりでなく、納めた税金は、私たちが生活していくうえで、いろいろな形で役にたっている。

例えば、私たちが使っている教科書、道路、公共施設、その他いろいろなことに税金は使われている。誰かが「私一人ぐらい払わなくてもいい。払おうが払うまいが、私の勝

手だ。」と考える人がいたならそれは、まちがっている。

たとえ知らない人同志でも、人と人が助けあい、支え合っていくのが社会だと思う。

結局、人は目に見えない誰かに助けられ、支えられながら、むしろ、そうしてこそ生きていくのではないだろうか。

私たちは、憲法で多くの自由や権利をあたえられている。自分の権利ばかりを主張して義務を果たさない社会が、果たして本当に社会といえるだろうか、悲しいことだと思う。私はまだ子どもだし、税金を納める義務はない。けれども、税金の恩恵をうけている一人だと思う。これから私たち若い世代も、もっと、もっと、税金に関心を持つことが大事ではないだろうか。

子どもの目から見ても、税金は、ぜひ払ってほしいし、みんなが、きちんと払うことによって、この油谷町もさらに発展していくのではないかなと思う。税金を納めることもみんなが協力して行うことの

ひとつだ。正しい使いみちをされることを願うと同時に納税の義務を、怠らないでほしい。みんなが協力して、ひとつずつ、きちんとやることができるならば、誰もが生活しやすい町になることだろう。私も、大人になったら、きちんと税金を納める人になりたい。そして税に対して、正しい考えを持つことのできる若者の一人でなければならぬと思う。

標語

長門税務署長賞

向津具小学校 六年

島田 裕子

税金を はらって
住み良い 町づくり

佳作

◆作文の部

「税金の大切さ」

向津具中学校 一年

奥藤 香織

「税金とは」

菱海中学校 三年

本永 久美子

◆標語の部

伊上小学校 六年

前田 幸三

働いて 税をおさめて
明るい日

小・中学校だより

油谷中

活力ある学校を目指して

油谷中学校では「創造、純真、鍛錬」の校訓のもと「明るく楽しく美しい学校づくり」に取り組んでいます。

「おはようございます」という生徒の生き生きとした挨拶で学校は目覚め、スピーカーから流れる校歌は生徒の気をひきしめます。朝の学活ではその月の朗唱が各学級で行われ、明るく元気のよい声が校舎いっばいに響き渡ります。

小人数個別指導による、わかる授業の創造は生徒に学ぶ意欲と楽しさを教えます。また、放課後は部活動で汗を流し、それぞれの目標に向かって厳しい練習にも歯をくいしばって耐えています。そこで培われたたくましさは、排球部男女の春季県体アベック三位、庭球部男女の春季県体連続出場、卓球部女子の町内卓球大会準優勝というすばらしい成果を生み出しました。

校舎の回りには真赤なサルビアや黄色のマリーゴールドなど季節感あふれる花々が生徒の手により色鮮やかに咲いています。この花いっぱい運



動は花を育てる優しい心を育んでいます。学級菜園では一年生はさつまいも、二年生はプチトマト、三年生はキュウリを作り、勤労の尊さを知り収穫の喜びを味わいました。地域奉仕活動として、大浜海岸クリーン作戦を夏休みをはさんで二回実行しました。大浜のあきかんやごみの多さには驚くやらあきれるやらでしたが、清掃を終えて帰る生徒の顔には美しい自然を守る心が芽生えている様子がはっきりと感じ取られました。

生徒会活動も活発に行われ総会では学校生活を充実させるために熱心に討論が行われました。